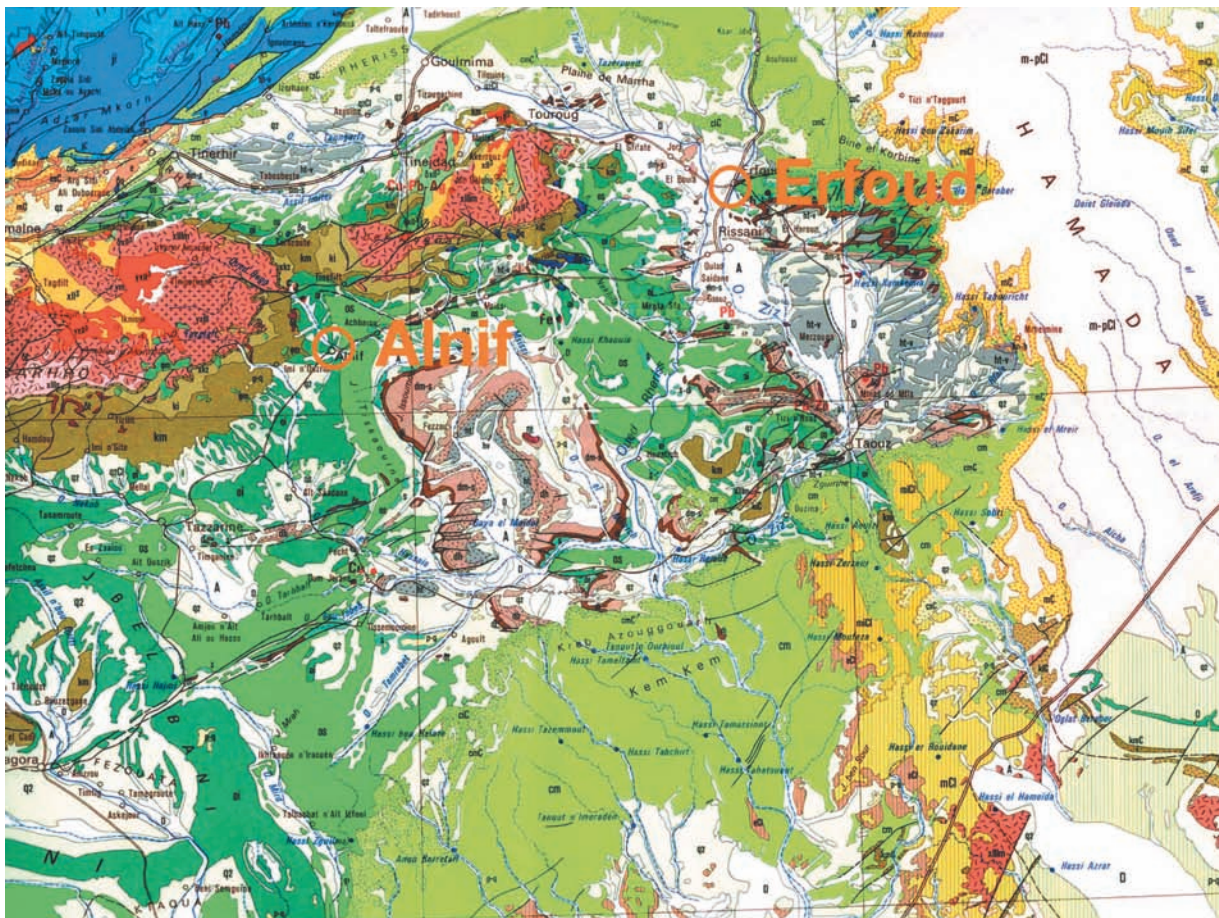


# アフリカとヨーロッパの架け橋、モロッコの地質を訪ねて

## 1. 古生代化石の宝庫、エルフードからアルニフへ

＜蟹江 康光・蟹江 由紀・松島 義章・上西 敏郎＞



1. 1/100万地質図 (Ministere de l'Energie et des Mines, Direction de la Geologie, Royaume du Maroc, 1985) にエルフード (Erfoud) とアルニフ (Alnif) の位置を記入。



2. アルニフ南東のデボン紀層に挟まれる淡緑色の層は、三葉虫を採集するために掘られたズリである。



3. デボン紀層に含まれるノジュール。クリーニングすれば完全な三葉虫の個体になるだろう。





4. アルニフ村は、サハラ砂漠に面する町であるが、化石ショップの看板が目立つ。砂塵が舞っていた。



5. アルニフ南側にはオルドビス紀層の分布。大雨の後は洗い出された化石をワジで採集できる。



6. アルニフ北方の峠付近には、カンブリア紀下部の露頭がひろがる。人物は蟹江康光と松島。



7. 保存の良いエルフード産デボン紀のウミユリ。



8. エルフード南部におけるデボン紀の露頭。オルソセラスやゴニアタイトの化石が含まれている。



9. リッサニのクリーニング工場。



10. エルフードのクリーニング工場。